

有間竹林愛護会

調査団体名	有間竹林愛護会	団体代表者名	原田茂男
設立年	2011年4月1日	対応してくれた人の名前	原田茂男
団体URL			
活動拠点	豊田市有間町 竹ノ下地内	調査員	大森正昭、松井賢子、沖章枝
取材日	2015年11月26日	レポート作成者	沖章枝

活動内容 : 有間町竹ノ下地内の竹林を整備し、矢作川河畔の景観を良くし、河畔の散策ができる遊歩道を敷設して住民や来町者に安らぎと癒しの場づくりをめざす。

現在のハチク竹林は、昭和30年代まで畑だった。畑を耕作していた時は民家から川が眺められ、川風が家までとどいて心地よかった。畑を作らなくなったら竹が驚く速さで繁茂し真っ暗になって風も来なくなった。

平成23年、川岸の植生調査をした豊田市矢作川研究所の指導があって、会を立ち上げ竹林の整備を始めた。全体の整備計画を前期5年間、後期5年間に分けて、前期の4年が終わって、今年は、これまでの整備地の振り返り間伐をしている。

後期の5年間では、① 次の整備竹林の間伐 ② 遊歩道の整備 ③ 管理道路の敷設 ④ 竹林内の筍の採取と商品化を計画している。

豊田市のわくわく補助事業によって道路の整備や、平成27年3月には、林内に休憩所“ふれあいの小屋”が完成して作業の効率も良くなった。

間伐作業は、毎月第3日曜日を定例作業日にして、年間12回。ただし、町内会の作業を優先して変更する月もある。伐採竹は纏めて豊田市の焼却場へ運んで燃やしてもらっている。最近では、伐採竹の利用を考える会社(豊田バンブー株式会社)が聞きつけて来られ、機械を運んできて一部竹チップにされている。粗いチップやパウダー状にして、肥料や公園等の遊歩道に敷き詰めるなどさまざまな試験を始められている。

ボランティア学生さんの協力もある。間伐は会員で、ボランティアの方には搬出をいただいている。

設立時の会員18人。2人増え、1人引退され、現在は19人で内訳は50代1人、60代8人、70代10人。加えて、女性部(会員のつれあい)が14人となっている。

キャッチフレーズ :

ただひたすら私たちは竹をきる

会のモットー(何を大切にしているか) : 参加することも、作業も無理をしない。慌てず、ゆっくりと。

作業に参加するときも体調に合わせて、無理強いほしない。

曲がった竹は切ると、倒れる時に縦に裂けやすいし、長いので倒れた先に人がいないことを確認するなど、怪我のないように気を付けている。お陰でH23年から今まで怪我をした人が一人もいなかった。

設立から現在に至るまで変化したこと:

①みんながやる気満々になってきた気配を感じる。家でブラブラしては体に良くないから会に入れて欲しいという人もでてきた。会員の連れ合いの14人の女性が加わった影響も大きいと思う。

②14人の女性で女性部を作り、筍が生育する5、6月に採取して、皮を剥いて、小渡の商店街に出荷している。瓶詰めにし、“夢たけのこ”の商品名で販売している。ただ、有間竹林愛護会としては皮をむいた生の筍を出荷するまでを担っている。

③女性部の会員で“たけのこ屋”というグループをつかって、販売の許可をとって筍ごはんの弁当をイベント会場で販売をするようになった。

④H24年からは、ただ竹を伐採し5、6月に筍を出荷するだけでは能がないのではと考え、集落全員参加で“初物の会”を催すようになった。整備した竹林のなかで、採れたての筍ご飯を炊いて、味わい楽しんでいる。

連携している団体・専門家・自治体など:

豊田矢作川研究所、おいでん・さんそんセンター、豊田バンブー(株)、矢作川愛護の18団体(情報交換をしている)

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など):

現在活動中のすべての事柄が該当するように思いました(取材者)

現在直面している課題 :

竹は直ぐ生えてきて、油断すると直ぐ繁る。タケノコの間には採取、伐採するのが効果的と考える。生育の期間は女性部が筍を担当している。

H26年、27年連続で椋山女学園大学の食品・栄養学専攻の学生や小渡こども園の園児、今年是小渡小学校の1、2、3年生も筍採取体験に来てくれた。採った筍を土産に持って帰ってもらっているが、筍を活用した新たなレシピの研究開発があるとよいと思う。

今後やってみたいこと:

- ①安らぎと憩いの場を求めて地域の外からの人にも来てもらいたい(そんな場を作りたい)。
- ②遊歩道が完成したら、竹林内の案内板を設置したい。
- ③竹林の下流の川岸に、土地の人が昔から水神さんと呼んでいる大きな石があるので祠を建てたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か:

広報の仕方やアイデアがあれば頂きたい。

チームオリジナルの質問:

<質問内容>竹林の整備地の所有者と地目はどうなっているのか。

全て民有地で畑。

整備計画地55,000m²が有間竹林愛護会に委託されている。

その他、伝えたいこと:

整備を急ごうとすると積極的にボランティアの募集を願うことになるが、それも“急がずゆっくり”、と思っている。

写真



竹林ふれあいの小屋 (H27年3月完成)



原田 茂男代表



整備した竹林

こども園児がたけのこ採り体験

6月4日(水)、小渡こども園児がたけのこ採り体験に訪れました。11名の園児と先生・保護者のみなさんが竹林を見学しながらたけのこの採取を楽しみました。竹林愛護会の会員に採り方を教わり、たくさんのたけのこを持ち帰ってもらいました。



集落全員参加で初物の会(筍ごはん)

“有間竹林愛護会だより”より